

## 第3節 市町村における特色ある取組（喜界町）

### 喜界町のサンゴ礁の海に係る取組

#### 1 背景

鹿児島県奄美群島の喜界島は過去約10万年間のサンゴ礁が隆起し形成された、サンゴ礁段丘地形が発達する離島です。この希少なサンゴ礁段丘の地形には、過去から現在の地球環境変動の記録が詳細に閉じ込められており、これまでも国際的な海洋地質学研究的の舞台になってきました。また、地域にはサンゴ礁の海を利用した文化が残されています。喜界町ではこの地形の特徴・文化を教育や観光、環境保全に生かした取り組みが広まりつつあります。

#### 2 これまでの主な取組内容

喜界町内では、隆起サンゴ礁を生かしたサンゴ礁に係る取り組みが行政・民間の協働で広く行われています。

- (1) 喜界町小中高等学校による海洋教育
- (2) 地域NPOによるサンゴ礁サイエンスキャンプ
- (3) 地域団体による海岸清掃活動
- (4) 隆起サンゴ礁の地形を生かしたジオツアーの開催
- (5) 喜界町国立公園内におけるグリーンワーカー事業
- (6) 一般ダイバー参加のサンゴ礁モニタリング，リーフチェック実施
- (7) 地域NPO・行政・環境省の協働のサンゴ礁文化の調査ワークショップ

#### 3 効果・実績

##### (1) 喜界町小中高等学校による海洋教育

平成29年度より喜界町の小中高等学校4校で海洋教育が行われています。小学校ではサンゴ礁を観察するためのスノーケリング実習やサンゴの飼育と成長の観察，中学校ではサンゴの養殖実習を行なっています。また，高等学校では漂着物の原産国調査やサンゴ礁に流れ込む土壌の研究等，サンゴ礁に係る理科実験実習を年間を通して取り組んでいます。近年，海岸の護岸工事や安全面から子どもたちが海やサンゴと接する機会は減少していますが，海洋教育を通して隆起サンゴ礁の郷土への誇りや，自然科学への興味関心を高める効果が期待されます。



図1 研究者によるサンゴの出前授業



図2 スノーケリング実習の様子

## (2) 地域NPOによるサンゴ礁サイエンスキャンプ

平成27年度よりNPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所は、島内外全国の小学3年生～高校生と大学の研究者によるサンゴ礁サイエンスキャンプを毎夏実施しています。平成30年度は島内外42名の参加者と12名の研究者が集まり研究実習を行ないました。子どもたちは最後にキャンプでの研究成果をポスターにまとめ、地域住民の前で発表を行います。さらに、一部の参加者は日本サンゴ礁学会での発表に挑戦し、高い評価を得る事ができました。参加した子どもたちはサンゴ礁や自然への興味関心を高めており、喜界町から将来の研究者を志す次世代のリーダーが育成されています。



図3 サイエンスキャンプの集合写真



図4 海での研究実習の様子

## (3) 地域団体による海岸清掃活動

喜界町は海流の関係から、海岸には多くの漂着物が流れ着くことが問題となっています。地域団体による海岸清掃活動が多く行われる中、喜界町地域おこし協力隊員が発起人となった「喜界島クリーンアッププロジェクト」は、毎月の海岸清掃に加えて、ペットボトル漂着物の原産国調査や、流木や貝殻、サンゴの破片などの漂着物を使った工作体験、漂着ゴミを考えるワークショップを実施しています。他にも、与論島での取り組みを参考にした、漂着物を回収する「拾い箱」の設置など、地域と協働した楽しいビーチクリーンイベントを企画・運営しています。



図5 海岸での清掃活動



図6 漂着物を用いた工作体験の様子

#### (4) 隆起サンゴ礁の地形を生かしたジオツアーの開催

隆起サンゴ礁の作り出す地形の見どころをジオサイトとして、喜界島の成り立ちを体感するジオツアーをNPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所が実施しています。喜界町では観光振興計画の方針として「喜界町の特徴ある地域資源を活用したアカデミックな観光の展開」を定めており、喜界島の隆起サンゴ礁や埋蔵文化財など学術的価値の高い地域資源を活用した観光の展開に取り組んでいきます。



図7 サンゴ礁段丘を眺める参加者



図8 化石が当時の海の様子を伝えます

#### (5) 喜界町国立公園内におけるグリーンワーカー事業

喜界町の国立公園に指定された海岸域は、日本のみならず外国由来のゴミが大量に漂着している現状にあり、海洋生態系への影響や海岸機能の維持の観点から定期的な清掃が必要です。また、国立公園内にも外来植物が繁茂し、景観悪化の一因となっています。この取り組みでは喜界町国立公園内の海岸漂着ゴミ等の清掃並びに外来植物の分布調査を行なっています。



図9 国立公園内での植物調査



図10 特定外来生物ポタンウキクサ

#### (6) 一般ダイバー参加のサンゴ礁モニタリング，リーフチェック実施

喜界島の海中には奄美群島の中でも比較的白化の影響を受けていない健康なサンゴ礁が多く存在しています。平成30年度の国立公園海域に近い荒木集落海域で実施されたリーフチェックでは、一般ダイバーも参加しサンゴ礁モニタリング調査が行われました。当該地域の造礁サンゴの被度は約51%あり、高いサンゴ被度を維持している事がわかりました。今後の継続した調査により、サンゴ礁の保全に役立てられることが期待されます。



図11 リーフチェックの様子



図12 荒木集落沖の海中の様子

### (7) 地域NPO・行政・環境省の協働のサンゴ礁文化の調査ワークショップ

喜界島では、サンゴの石を使った石垣やお墓、隆起したサンゴ礁地形を活用したおかずとりなど、身近な暮らしにサンゴ礁の海を利用し、喜界島独自の文化を形成していますが、近代化や人口の減少に伴って失われつつある文化もあります。この取り組みではこれらのサンゴ礁文化を再発見・活用し、「地域の活性化」「伝承文化継承」「サンゴ礁の保全」に結びつく持続可能な活動が地域で展開されることを目指しています。



図13 ワークショップの様子



図14 資源情報を地図にまとめます